

概要

卒業研究では、学期ごとに2つの課題について、それぞれ2回レポートを提出(中間提出、本提出)します。中間レポート(2,000字以上)とは、最終レポート(4,000字以上)へ向けて途中まで作成したもののことを指します。中間レポートを加筆修正したものを、最終レポートとして提出することになります。さらにレポート提出者に対して、課題ごとに口頭試問を実施します。なお、それぞれのレポート提出前にレポート相談期間(要予約)を設定します。この期間を利用して、担当教員に相談ができます。

なお、この授業におけるAIの使用に関する注意事項については、卒業研究1・初回ガイダンスにて説明します。

1. スケジュール

【春学期「卒業研究1」履修者・春学期「卒業研究2」履修者】

課題レポート中間提出：2026年5月25日(月)～5月28日(木) 15:00

課題レポート本提出：2026年7月1日(水)～7月4日(土) 15:00

口頭試問：2026年7月中旬～下旬。日程は試問1週間前を目処に担当者から連絡する。

【秋学期「卒業研究2」履修者・秋学期「卒業研究1」履修者】

課題レポート中間提出：2026年11月9日(月)～11月12日(木) 15:00

課題レポート本提出：2027年1月8日(金)～1月13日(水) 15:00

口頭試問：2027年1月中旬～下旬。

2. レポート作成の共通注意事項 すべての課題において、以下の点を守ること。

- (1) レポートの書式については、Master of Writing を参照すること。特に引用・参考文献の表記や文献表については「6.引用・参考と出典の示し方」「7.文献表の書き方」を参照して記載すること。
- (2) タイトルは、レポートの結論を適切に表現したものとする
- (3) 生成系 AI の利用については、別紙「生成系 AI ツールの利用についての基本的な考え方」(初回ガイダンスにて配布)を参照すること

3. その他注意事項

- (1) レポートの提出先は CanvasLMS に設ける。
- (2) 開講学期の異なる卒業研究の開講申請期限：
 - ・春学期「卒業研究2」 2026年4月3日
 - ・秋学期「卒業研究1」 2026年9月10日
- (3) 時間を厳守すること。提出の締切時間を過ぎたものについては受け付けない。

現代文化学科

2026 年度卒業研究 課題

卒業研究 1（春学期）各学生は、下記 2 つの課題について、ひとつの学期のうち両方とも取り組むこと。

【現文 1】（担当：大倉）

現代社会における「宗教」または「ポピュラーカルチャー」に関わる現象について論じなさい。ただし、次の条件を満たすこと。

- (1) 現状だけでなく、これまでの歴史的変化についても論じること。
- (2) 論拠として、具体的現象・事例についてのデータを 2 つ以上示すこと（量的データでも質的データでもよい）。また、目安として社会学に関連する関連する論文・学術書を 3 点以上読み、そこから適宜引用するとともに、末尾に引用した文献をまとめて示すこと。

【現文 2】（担当：高木）

日本の都市または地域社会のうち 1 つを取り上げて、そこに現れている問題を論じなさい。ただし、次の条件を満たすこと。

- (1) 取り上げた問題について、統計データ、行政刊行物、各種文献などの資料を用いて具体的に説明するとともに、使用した資料やデータについて、すべて典拠を示すこと。
- (2) 取り上げた問題について、資料とは別に論文・学術書 3 点以上を参照して、社会学的知見に基づいて論じること。その際に直接引用か間接引用かにかかわらず引用・参照した文献などすべて引用・参照箇所ごとに明示するとともに、末尾に引用した文献をまとめて示すこと。

卒業研究 2（秋学期）各学生は、下記 2 つの課題について、ひとつの学期のうち両方とも取り組むこと。

【現文 3】（担当：大倉）

20 世紀以降における環境汚染に関連した事件・事故の具体例をあげ、その事例に関する現在の課題や問題について書きなさい。その際、テーマや事例に関連する論文・学術書から 3 点以上を参照し、出典を明記し、正しく引用・参考を行いながら論じること。また、末尾には、参照した文献・資料をまとめて記すこと。

【現文 4】（担当：高木）

日本の「外国人材」の受入れの問題点について、整理しなさい。その際、新聞記事 2 つ以上と論文・学術書 2 点以上に触れながら、社会学的に論じなさい。その際に直接引用か間接引用かにかかわらず引用・参照した文献などすべて引用・参照箇所ごとに明示するとともに、末尾に引用した文献をまとめて示すこと。